

## [講演要旨] 絵画によって子どもの「気づき」を誘発する環境防災教育手法の提案

木村玲欧 (富士常葉大学環境防災学部)・岩月佐江子 (愛知県安城市志貴小学校)・

藤田哲也 (日本画家)・阪野智啓 (日本画家)

How we can cultivate some awareness of disaster mitigation and preparedness in educational program

- educational materials using victims' story and pictures

KIMURA, Reo (Fuji Tokoha University), IWATSUKI, Saeko (Shiki Elementary School, Anjo city, Aichi pref.)

FUJITA, Tetsuya (Japanese-style painter), BANNO, Tomohiro (Japanese-style painter)

### § 1. はじめに

筆者は「地域の歴史災害」をキーワードに、地域で過去に何が起こったのかを子どもたちが学習することで「子どもたちの防災マインド」を育て、子どもたち自身が「地域の特徴を反映した具体的な行動・対策」を考え、「その成果を地域へ還元」するための防災教育プログラムと教材を開発している。

具体的には、死者 2,306 人を出した東海地方の歴史災害「1945 年(昭和 20 年)三河地震」について、被災者へのインタビューによって災害像と教訓を視覚化・物語化する活動を行ってきた。特に 2008 年度は被災体験談・絵画をもとにした防災教材・教育プログラムを開発し、愛知県安城市内の小学校(志貴小学校、祥南小学校、桜林小学校)で実践を行いながら、教材とプログラムの検証を行った。

### § 2. 教材とプログラムの概要

教材については、被災者の被災体験談を基礎に作成した。これは子どもたちの学習の特徴である「無関心、気づき、正しい理解、災害時の的確な判断と行動」という 4 段階による学習過程を教材に反映させるためである(図 1)。子どもの学習にとって肝要なのが「気づき」であり、子どもたちが「対象に対して興味・関心、好奇心、不思議さ、疑問が湧き上がる」ことである。子どもが気づきを持ったことを指導者側が把握することによって初めて指導計画が展開し、子どもたちの気づきを受けて提供されたときに教材や資料が初めて有効になる。子どもにとって気づきを誘発しやすい事象として、いわゆる伝記に代表されるような「1 人の人間が、時間経過に伴ってどのようなことを考えて行動し、どう変化していくか」という人間に焦点を当てた物語があげられる。そのため、子どもの気づきを誘発するための教材として、自然現象の原理・法則についての解説ではなく、時間経過に伴う被災者の実際の被災体験を材料とした。

プログラムについては「1クラスの児童を対象にした1年間にわたるプログラム」と「多人数の児童に対する2時間で学ぶことができるプログラム」(図 1)の2種類を提案することで、学校の実情に即したプログラムが選択できるように配慮した。「1クラス・1年間」のプログラムは、被災者体験談を聞き教材を解くことによって、災害・防災への興味を喚起し、その後、土地の被災者へのインタビュー、防災に関する調べ学習、学芸会への防災劇上演、防災マップづくり、防災手帳づくりへと発展させた。「多人数・2時間」のプログラムは、1時間目に地震の概要と被災者体験談を聞いた後、2時間目に屋台形式の体験学習を行うことで防災の知恵を身につける。その後の総合的学習の時間で、被災者体験談を基に作成した教材を解くことによって知識の定着化を図った。

### § 3. 成果と今後の展開

「地域」を題材として取り上げるために、子どもたちにとって被害の具体的なイメージがしやすく、災害・防災を「わがこと」として捉え、さまざまな防災学習につなげていくことができた。また地域の被災体験を語り継ぐことによって、地域の歴史・風土・災害文化を子どもたちに継承していくことができた。さらに、子どもたちが学んだことを学芸会などで発表することによって、子どもたちから家庭・地域へ防災の知恵を広げていくこともできた(図 2)。

なお、この取り組み(「土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶわたしたちの防災術」)は、「地域の歴史災害を児童が学び、その成果を地域へ還元する素晴らしい防災教育実践」との評価をいただき、2008 年度の内閣府・防災教育チャレンジプラン優秀賞を受賞した。またこの取り組みの過程で、愛知県安城市防災課・学校教育課・教育委員会から「来年度以降も市のプロジェクトとして継続的に行っていきたい」との評価を得、2009 年度は「防災教育プラン検討会」が市で立ち上がり、体系的な防災教育についての検討・実践が続けられている。

1時間目

2. 地震って何？



動画や写真を使って地震被害、特に過去の災害での地域被害について説明をする。

3. 地震が起こると何が大変なの？



被災者の体験談を、司会者との対談形式によって、話を聞く。

2時間目

4. さまざまな防災の知恵を体験しよう！



後日(総合的学習の時間)

5. 復習しよう！

班にわかれて3つの屋台をまわりながら防災の知恵を学ぶ

体験談を復習し知識の定着化を図る

図1 2時間で学べるプログラム(複数クラスの児童向け)

鈴木敏枝 皆名美代 へ  
 この方は地震について多く教えていただけてありがとうございました。私達は生まれてから大きな地震は体験していません。でもお二人のお話を聞いて地震の事が前よりも知ることができました。地震がどんなにこわいか、安城市は63年も大きな地震が来ていません。なのでいつ来るかわかりません。私は地震が来ておもうように準備をして向をすねばいいか頭の中に入れて自分の身をすくいた。でも地震の事を教えていただけて本当にありがとうございました。うございませ。

子どもたちの感想

その後のさまざまな調べ学習の一部



学芸会での防災劇上演  
 (脚本・装置・衣装等すべて子どもたちが制作)



劇は、被災した2人の姉妹の想起のかたちで進行する



三河地震を創作劇に  
被災者の体験談聞き



防災教育チャレンジプランの授賞式・受賞記念発表



図2 子どもたちの「気づき」を発端としたさまざまな学習